

AI・ロボット

転機予報 Part2 ⑪

AIは差別的？

「人工知能(AI)は差別的だ」というニュースが世間を賑わせた事がある。一例が、2016年にマイクロソフトが開発したAIチャットボット「Tara」が男性だったため、女性

適切な訓練データの重要性

性」だ。ツイッターなどを通じて一般ユーザーと会話をし、会話の履歴から学習して成長するという試みだった。しかし、一部ユーザーの差別的発言を学習し、自身も同じような発言を繰り返すことになってしまった。

データまねる

別の例は昨年、アマゾンが開発したAIによる履歴書審査ツールだ。過去の応募者のデータを学習して、新規応募者の履歴書をランク付けするものだった。しかしエンジニア職の過去の応募の多くが男性だったため、女

性の応募は評価を落とすなど、学習に使用した訓練データで考慮していなかった事に起因して起きたものだ。AIの構成要素となるディープラーニングの仕方は集められた訓練データをまねることで、適切な学習される。つまり学習データがない場

合に目的とズレのある需要予測をそれまで人手で行っていたが、予測の不確実性を減らそうという出発点に立ち返ると、そもそも誤りを含んでいる人手の予測結果を劣化コピーしても当然目的は達成できない。結果としてこのプロジェクトは、予想より精度が出ないという理由で中止となった。

目的に合致したデータを使用

07年(金19)産業技術総合研究所 12年ホストン・コンサルティング・グループ入社。AI系のスタートアップ企業を経て、16年にLaboro.AIを創業。

Laboro.AI
代表取締役CTO
藤原 弘将



07年(金19)産業技術総合研究所 12年ホストン・コンサルティング・グループ入社。AI系のスタートアップ企業を経て、16年にLaboro.AIを創業。

グは本質的に学習するデータを無理やり使うデータのまねをするもてしまつと、たとえ入るのであり、学習データ出力の形式が正しくても、学習データ自体に何かしらのバイアスも、本来の目的は達成できなくなる。当然それをそのまま表

グは本質的に学習するデータを無理やり使うデータのまねをするもてしまつと、たとえ入るのであり、学習データ出力の形式が正しくても、学習データ自体に何かしらのバイアスも、本来の目的は達成できなくなる。当然それをそのまま表

グは本質的に学習するデータを無理やり使うデータのまねをするもてしまつと、たとえ入るのであり、学習データ出力の形式が正しくても、学習データ自体に何かしらのバイアスも、本来の目的は達成できなくなる。当然それをそのまま表

(金曜日掲載)